

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年1月19日

1. 職名・氏名 教授・大石善隆

2. 学位 学位 博士、専門分野 農学、授与機関 京都大学、授与年 2007年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 導入ゼミ（1） 1年生
②内容・ねらい 大学生活を送るうえで重要になるスキル（レポート作成、プレゼンテーションの作成など）の向上をはかる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 多角的に考える力を養うため、学生の間で意見を交換したり、議論したりする機会を設けた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教養ゼミ（1） 1年生
②内容・ねらい 自らの考えを他人にわかりやすく説明するスキルを磨くことで、論理的思考力の向上を目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 「主体的に考える」機会を増やすため、学生自らが「探求課題」を設定する機会を設けた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 情報処理基礎演習（1） 1年生
②内容・ねらい 大学生活で必要となる情報処理スキル（インターネットリテラシー、ワード・パワーポイント等の使い方）を磨く。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 情報処理スキルについては学生の習熟度に相違がある。そこで、それぞれの習熟度に配慮した指導を行った。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 コケの世界（2） 1・2・3年生

②内容・ねらい

コケを一つの視点として、隣接する学問領域への知見を深める。また、身近な生物から自然や文化、環境問題を捉える感性を育む。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

学生自身がコケに触れる機会をつくるなどして、講義内容への興味や理解を深める工夫をした。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

生態学 1・2・3年生

② 内容・ねらい

身近な生物に着目して生物の環境適応や生き残り戦略、生態系のつながりなどについて紹介し、広く生態学について理解を深めていく。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

フィールドでの観察を取り入れたり、時事的な話題(最新の科学成果、報道など)を講義で紹介したりして、学生の興味を高める工夫をした。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

学術ゼミ(環境学C・D) 2・3・4年生

②内容・ねらい

身近な自然・環境を題材にして、環境問題を新たな視点で捉えられるようになる。レポート作成やディベート力など、アカデミックスキルを磨く。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

学生が主体的に取り組む課題を設定し、講義への積極的な関わりを増やすよう心掛けた。

(2)その他の教育活動

内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 著書 1. 大石善隆 (2022) 苔の声. 一般社団法人西芳会 (京都) : 24 pp. 2. 大石善隆 (2022) コケ植物と地球環境問題. 生物の科学遺産. Vol. 76. 小さなコケの声に耳を傾けると… [特集] コケ植物が語る過去・現在・未来. 190-195. <p style="text-align: right;">【2本】</p>
②学術論文 (査読あり) * 1. Oishi, Y. (2022) Moss biomonitoring using lead isotopes ratios requires careful attention: Evaluation of transboundary pollutants in Japan. Atmospheric Environment 275, 119004. * 2. Oishi, Y. , Kobayashi, H., Suzuki, NS, Kanai, R., Masaki, D., Tanaka, K. (2022) Bryophyte responses to experimental climate change in a mid-latitude forest-line ecotone. Alpine Botany 132, 329-336. 3. Zheng, T-X., Oishi, Y. , SHimamura, M. (2022) Notes on some Marchantiales taxa from Rishiri Island, Japan. Hikobia 18: 251-258. * 4. Oishi, Y. (2023) Seasonal differences in nitrogen deposition affect the nitrogen content in mosses: Implications for biomonitoring. Environmental Nanotechnology, Monitoring & Management (Accepted). <p style="text-align: right;">【4本】</p>
③その他論文 (査読なし) <p style="text-align: right;">【0本】</p>
④学会発表等 【0件】
⑤その他の公表実績 メディア等への出演・協力 テレビ 2023年1月21日 : Sa majesté les Mousses. ARTE (出演) (フランス、ドイツ、アイスランドにて放送) 新聞 2022年4月15日 コケの美は茶道から. 福井新聞朝刊 2022年5月17日 温暖化でコケ種類変化. 福井新聞朝刊 2022年7月19日 山岳のコケ 温暖化の脅威. 信濃毎日新聞朝刊 2022年10月30日 私の穴場 福井県「勝山市・平泉寺白山神社」. 毎日新聞朝刊 ラジオ 2022年5月23日 : 温暖化で山のコケがなくなる? FBC ラジオ (ユーグレディオ) <p style="text-align: right;">【6件】</p>
(2)科研費等の競争的資金獲得実績 【学外】 基盤研究 C (代表) 生物指標を用いた窒素降下物の広域評価と動態把握
(3)特許等取得

(4)学会活動等

2022-2023 年 編集幹事 (日本蘚苔類学会)
2022-2023 年 編集委員 (日本緑化工学会)

5. 地域・社会貢献活動

①国・地方公共団体等の委員会・審議会

2015-現在 希少野生動植物種保存推進員 (環境省)
2020-現在 コケ保全に関するプラットフォーム・有識者 (京都府)

②国・地方公共団体等の調査受託等

2016-現在 宮内庁庭園 (桂離宮・大宮仙洞御所庭園など) のコケ地整備指導 (宮内庁)
2021-現在 コケ庭のモニタリング調査 (京都府)

⑥公開講座、オープンカレッジなど

2022 年 5 月 : コケの世界 (福井自然史博物館)
2022 年 5 月 : 白山平泉寺のコケの世界 (白山平泉寺)

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

デジタル推進委員会
入試本部会議
IR 部会
カリキュラム委員会 (学術教養センター内)
研究・広報委員会 (学術教養センター内)

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など